



平成 22 年 11 月 12 日

各 位

上場会社名 ラサ工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 柳 萬 雅徳
 (コード番号 4022)
 問合せ先責任者 取締役財務部長 小野 茂夫
 (TEL 03-3278-3892)

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想値と実績値との差異、 通期業績予想の修正、及び特別損失の計上に関するお知らせ

平成 22 年 5 月 14 日に公表した平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）の業績予想値と、本日公表の第 2 四半期累計期間の実績値において下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。また、最近の業績動向等を踏まえて通期業績予想につきましても修正し、平成 22 年 9 月期末において下記の通り特別損失を計上しましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正について

(1) 平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想との差異（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	12,700	550	200	200	2.52
実績値 (B)	12,166	813	545	142	1.80
増減額 (B-A)	△534	263	345	△58	
増減率 (%)	△4.2	47.8	172.5	△29.0	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	10,879	△1,081	△1,663	△1,669	△21.05

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想との差異（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,400	500	100	100	1.26
実績値 (B)	10,820	700	455	104	1.31
増減額 (B-A)	△580	200	355	4	
増減率 (%)	△5.1	40.0	355.0	4.0	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	9,649	△918	△1,504	△1,528	△19.27

(2) 平成 23 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	26,300	1,400	700	650	8.20
今回修正予想 (B)	23,600	1,400	700	—	—
増減額 (B-A)	△2,700	0	0	—	
増減率 (%)	△10.3	0.0	0.0	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	22,288	△1,354	△2,548	△5,746	△72.46

平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	23,300	1,150	500	500	6.30
今回修正予想 (B)	20,900	1,150	500	—	—
増減額 (B-A)	△2,400	0	0	—	
増減率 (%)	△10.3	0.0	0.0	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	19,426	△1,424	△2,615	△5,553	△70.03

(3) 差異および修正の理由

第2四半期累計期間業績

当社グループでは、景気回復基調の流れに乗り売上高を回復しつつあり、徹底したコスト削減効果も寄与し、損益も予想を上回って推移しました。

化成品事業は、原材料価格に連動した販売価格の低下により予想に比べ減収となったものの、主として電子部品向け工業用燐系製品、コンデンサー向け原料の販売数量が伸び、損益は予想に比べ増益となりました。

電子材料事業の平成22年8月31日に事業撤退を公表したシリコンウェハー再生事業は、期央より販売数量を伸ばしましたが販売単価の低迷もあり、売上高、損益ともに計画を下回りました。また化合物半導体向け高純度無機素材については、携帯情報端末等の需要が好調なことから売上げを伸ばし、収益も予想を上回っております。

機械事業は、下水道向け掘進機、破碎関連機械ともに概ね予想通り順調に推移いたしました。

その他の事業につきましては、石油精製用触媒の再生事業は販売時期が前倒しとなったことから、計画に対して増収増益となり、また、精密機械加工も好調裡に推移しました。

なお、第2四半期において、特別利益に投資有価証券売却益、土地売却益を計上し、特別損失に投資有価証券評価損及びシリコンウェハー再生事業の撤退に伴う希望退職の募集に関する割増退職金等の見込額を事業整理損失引当金繰入額として計上しております。

このため、前回業績予想に対しまして上記のような差異が発生いたしました。

通期業績

今後の見通しといたしましては、化成品事業の収益は引き続き工業用燐系製品を中心に順調に推移するものと見込んでおります。また、電子材料事業の高純度無機素材は携帯情報端末等の需要が依然旺盛なことから、引き続き堅調に推移するものと予想しております。機械事業は下水道関連の海外向け掘進機の販売もアジアを中心に伸びると想定しているものの、為替の影響から利益率の悪化が予想されます。また破碎機関連については廃材処理向けの販売が好調に推移するものと見込んでおります。

これらの見通し及び第2四半期累計期間の進捗を踏まえますと、シリコンウェハー再生事業の年内撤退に伴い、売上高は当初の通期業績予想に対し下方修正となりますが、シリコンウェハー再生事業を除く事業につきましては、第2四半期累計期間の流れを受け、収益は概ね堅調に推移するものと予想しております。しかしながら、シリコンウェハー再生事業の年内撤退に向けた作業を進めながら受注済品の生産を行う状況から、製造コスト等が見込み辛いことなど不安定要素を内包しているため、営業利益、経常利益は当初の通期業績予想を据え置くことといたします。

また、撤退に伴う損失につきましては、第2四半期に希望退職の募集に関する割増退職金等の見込額を特別損失に計上しておりますが、同事業に属する資産に関する計画については現在検討中であるため、当期純利益につきましては、当初の業績予想を一旦取り下げ、今決算発表時においては未定といたします。

なお、当期純利益につきましては、業績予想の開示が可能となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 特別損失の発生及びその内容について

(1) 投資有価証券評価損

「其他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価あるいは実質価額が著しく下落し、その回復する見込があると認められないものについて、平成23年3月期第2四半期において減損処理による投資有価証券評価損219百万円を特別損失として計上しております。

(2) 事業整理損失引当金繰入額

平成22年8月31日開催の臨時取締役会においてシリコンウェハー再生事業の撤退を決議し、本年12月末をもって同事業から撤退を完了する予定であります。これに伴い発生する損失の見積額650百万円を、平成23年3月期第2四半期において事業整理損失引当金として計上しております。

以 上